

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078700210		
法人名	社会福祉法人 朋寿会		
事業所名	グループホーム夢想園		
所在地	福岡県みやま市瀬高町松田481 (電話) 0944-63-2242		
自己評価作成日	平成 27 年 8 月 7 日	評価結果確定日	平成 27 年 10 月 7 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

のどかな田園地帯にあり特別養護老人ホーム敷地内に併設しており、デイサービスに行ったり、ホームの慰問や行事に参加したり、近隣の方よりお花を頂き会話も時々しています。近くの道の駅までショッピングに出かけたりして、地域と密着した運営をしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokensaku.jp/>

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 27 年 9 月 8 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

穏やかな田園風景の中に一方には民家がある事業所は、早くより地域福祉に根ざした母体法人特別養護老人ホームの敷地内に隣設されている。落ち着いた鉄筋一階建てで、玄関前の植え込みやプランタの花に親和的な趣がある。福祉面に取り組んでいる法人の意向を旨とし、全職員は利用者一人ひとりの尊厳を重んじ寄り添い、日々の散歩やお手玉などで心身機能維持を図っている。お天気の良い日には開放感がある中庭で昼食をしたり、土曜日には同法人のデイサービスに出かける。園児の訪問や小・中生の体験学習、短大・大学生の実習を受け入れている。地域の行事に参加し、事業所の行事に地域の参加があるなど、地域社会との連携を図り貢献したいと、理念の実践に向け全職員で取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【1 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者の自立と尊厳を支え、福祉を通じて地域社会に貢献する。地域社会の一員として、優しい介護を提供し、生活の質の向上に貢献する。	地域密着型の視点を盛り込んだ事業所独自の理念を全職員で作りに上げている。ミーティング時に唱和し理念を共有し、言葉かけ、態度などを自然体で身につけ、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所があまりないが、お花を持って来られ、散歩の時に声をかけて頂く。	2か月に1回の事業所便りは運営推進会議の委員を通じて回覧して貰っている。自治会に加入し、地域の清掃活動などに参加し、事業所の納涼祭・敬老会には地域に声かけし参加がある。園児・小・中学生の体験学習、短大・大学生の実習を受け入れ、近隣からお花が届いたり、立ち寄られたりなど交流に努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やデイサービスとの交流により、理解や支援をしていただくよう努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の近況報告・行事計画・質疑応答など園だよりを配布している。	定期的開催し、利用者の状況や現在の取り組みなどを報告している。意見は少ないが、水分摂取量について討議を行い意識を深めてサービスの場に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に相談・助言・指導を受けている。運営推進会議にも参加され、コミュニケーションをとっている。	必要に応じて市役所に出向き、報告・連絡・相談などで行政と話し合う。また電話での連絡で話し合っている。積極的に事業所から「他の事業所との会議をしたい」と市へ働きかけ、実現した例もあり、行政との協力関係に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会をし、玄関にはチャイムをつけているが、施錠はしていない。	玄関にセンサーはあるが、何処にも施錠はない。全職員は外・内部研修で身体拘束の弊害を熟知しており、利用者一人ひとりのサインなど把握に努めており付添い見守りをしている。拘束マニュアルを作成し、拘束のないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催し、理解・防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用されている方はいないが、窓口パンフレットを置き、必要な方にはいつでも相談できるよう勉強会を行っている。	制度に関し、一部職員が外部研修を受け内部伝達研修を行うことで全職員が理解しており、利用者の契約時に利用者や家族等に説明している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をされる際、十分な説明を行い、何時でも相談を受け、納得して頂けるよう努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にコミュニケーションを多くとり、運営に反映するよう努めている。	会議の意見として、利用者家族から散歩を少し多くしてほしいと望まれたことがあり、一緒に散歩している。利用者が常に職員に何でも言えるようにし、家族などの来訪時には常時声かけ、意見を聞き、話し合い適切に対応している。第三者相談窓口についても契約時に説明し、玄関入口に掲示している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕のミーティングや月1回の職員会議に意見交換を行い、改善に努めている。	全職員で自己評価に取り組んでいる。第二金曜日にミーティングを行い、気づきやアイデアなどを話し合っている。また個人的に話を聞くなどして働きやすくし離職者はいない。引き継ぎの期間は一か月取っている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の役割を分担し、向上心を持ち、より良く働けるよう努めている。 年2回の目標シートを作成し、給与・賞与に反映している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>年齢や性別等は問われない。 運営母体が決めている。 外部や内部での勉強会を促している。</p>	<p>採用選考は運営母体が決めているが、性別・年齢などで排除はしない。職員配置・教育訓練などにも差別はなく、安心して働けるよう施設長や主任は取組んでいる。職員の表情は生き生きしている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人の新人研修や職員会議で勉強会を行い、人権教育に努めている。</p>	<p>人権教育について一部職員は外部研修を受け理解しているが、内部伝達研修が行われていない。新人研修や他の勉強会は行っている。</p>	<p>利用者に対する人権尊重の意識向上の為、テキストなどを整え出来るだけ早期に、職員の人権教育の研修を実施され、啓発活動に取り組まれることを期待したい。また資料・研修報告書などは職員がいつでも確認できるような所に保管されることを期待したい。</p>
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部や外部での勉強会に参加できるように勧めている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流やネットワークづくりの勉強会に取り組んでいる。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>個人の部屋で話を聞き、安心して安全な環境づくりに努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族とのコミュニケーションを図り、面会時やお手紙・近況報告等に努め、話を聞いている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族・親子の関係など本人・家族の要望をもとにどうゆう支援が必要かを考え、出来る限り希望を取り組むようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	戦争の事や若い人には解らない物事を人生の先輩として聞いたり、日常生活の中で信頼関係を築くように努力している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回定期通信をしている。 定期的に通院する場合は同行して頂いている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の定期的な面会（2回程/1ヵ月） デイサービス、特養での行事やお説教などに参加し、馴染みの方との触れ合いや交流を図っている。	利用者の馴染みの人や場所について職員は把握しておりそれが途切れないようと、友人の方に月2回訪問して貰っている。ドライブなどの機会には家の近くを車窓から見て貰う。馴染みの深い清水山へ出かける。隣接の事業所でのお話し会やデイサービスで友人・知人と交流したり訪問して貰っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を把握して毎日のレクリエーションやドライブなどを通し、共に暮らしを楽しめるよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合など定期的に家族に連絡をとり、相談や支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用所やご家族の思いや希望、意向等を把握するように努めている。又、理解力に乏しい方には本人の視点にたって意見を出し、話し合っている。	利用開始時に本人家族から生活に対する意向を確認している。日々の生活中でも親近感を持って貰えるような身近な言葉での声掛けに努め意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な人には家族などの面会時や状況報告時に本人本位の支援が行われるよう検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントや本人とのコミュニケーション等から経験や主要となる出来事を知る事でその方の生活文化や個人を把握しようと努力している。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	年齢的、心理的行動を観察することから、その日の状況や状態に合わせた統一したケアに努めている。介護日誌や申し送りなどで伝達している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	精神的、身体的に現状維持が出来て本人が自分らしく生活を送られるよう関係スタッフが出し合い、話し合い作成している。本人・家族の要望も取り入れている。	介護計画は担当職員が利用者や家族等からの意見を聞いている。かかりつけ医の意見は看護師が聞き、職員全体の会議で検討、ケアマネジャーが作成する。6か月ごとに見直しを行い、状態変化時にはその都度見直し、本人・家族などに報告している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況を記録し、気付いた変化や改善の意向など職員の意見や工夫を取り入れ実践し介護計画の見直しに努めている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人のデイサービスにおいて交流を目的として参加したり、特養での年中行事に参加している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の風物に合わせて、散歩して頂いたり、直接肌で感じ取ってもらえるように、行事・催し物に工夫したりして支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と話し合い、主治医を決めて頂いている。週に1~2週に1回等定期的に診察を受けてもらい、内服処方を受けている。血圧等、変化認めれば随時報告して適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は本人、家族などの意向で決めており、市外の専門医などへ通院している利用者もいる。市外のかかりつけ医への通院は、基本的に家族が行うことに取り決めているが、困難時には職員が対応している。診察結果を家族へ電話で報告することで健康状態が共有できるよう努めている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察や健康状態の変化など気付いた事を介護・看護職間で情報共有し、報告し合うことで異常の早期発見に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は、看護添書にて医療連携室と情報共有し合い、早期の回復につながるよう努めている。その為、入院中も面会に行くなどし、利用者の精神的苦痛の緩和、病院スタッフとの信頼関係の構築にも配慮している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については、入居契約時に家族と話し合っている。家族や本人の希望に沿うようなケアを主治医と相談しながら行っている。	看取りの同意書を作成し、契約時に看取りについての説明が行われ同意を貰っている。看取りと判断された時は再度家族等に意向の確認を行い医師・職員・全関係者で方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し活用している。職員研修や会議で対応について学んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	救急法や消火訓練など、特養と一緒に 行っている。 地域の消防団に協力してもらっている。 非常用食品等は事業所内に準備して いる。	マニュアルが整備され、昼夜を想定した 避難訓練を一回ずつ実施している。町内 の消防団へ協力を要請しているが、消防 署への協力要請は行われていない。消火 訓練は隣接している事業所と合同に行っ ている。非常用食料・飲料水などは事業 所に保管し緊急時に備えている。	地域住民や消防署と連絡を図り事業所の 災害対策に関する話し合いや具体的な支 援体制の整備に取り組むことは重要であ り、消防署への協力要請を次に期待した い。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシ ーを損ねないように配慮し対応している。	特に排泄の誘導時には小さな声で促すな ど、誇りやプライバシーを損ねない言葉 かけや対応に配慮した声掛けをしてい る。内部研修やミーティングで職員の意 識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望でご家族との交流やデ イサービスとの交流を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の希望・思いを拝聴し本人のペ ースに合わせて支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回理容師に来園してもらっている。 利用者と共にショッピングにて衣類等購 入している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の体調や好みに合わせ食事形態の変 更を行っている。	利用者の状況にあった食事の形態になっ ている。準備や後片付けが出来る利用者 はいない。職員は、同テーブルで同じも のを摂り乍ら明るい会話をし食事介助を している。テーブルには季節の花があ り、天気の良い日には中庭で食事をし、 誕生日にはケーキを添え、食事が楽しめ るよう工夫している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立表に基づき、水分量・摂取量を記録している。体調不良時は随時水分を摂取して頂くよう支援している。又、利用者の摂取状況に合わせ粥、トロミ等食事形態にも配慮している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎を予防することを念頭に含漱の出来る方は歯磨き粉を、含漱の出来ない方は歯ブラシのみで行っている。又、必要に応じて歯間ブラシを用いて口腔内の洗浄を行っている。又、定期的（3～4ヵ月毎）歯科医に診察、歯科衛生士に口腔内洗浄の点検指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立ち上がり不安定な利用者には介助を行い、見守り、付き添いを行っている。毎日の排泄状況を把握し、食事摂取・体調と合わせて排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し個別に支援を行う事でトイレでの排泄が続けられるよう支援している。おむつが必要な利用者には、尿量に応じたおむつを検討し、快適に過ごせるよう家族等と話し合いながら、パットの大小を見直し費用軽減も図り支援している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の食事摂取の状況、腹部の状態は基本に、バイタルサイン・一般状態の変化にも注意し支援している。原因、対策にも取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一日毎、週3回の入浴を計画し、状態に応じ増減している。又、皮膚の状態の観察をし、入浴後の保清、保湿ケアも忘れず行い、入浴をよりよく楽しんでもらえるよう支援している。	週3回程度を計画している。月曜から土曜まで入浴ができ、日曜日にはシャワー浴などで対応している。拒否される利用者には声掛け、時間、人を代えるなど支援方法を工夫している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疾病により不眠傾向の方は主治医との連携によって必要時は眠剤の処方により安眠を支援している。個別的休息は居室にて休んで頂く。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	バイタルサイン・一般状態等の報告を行い、主治医の指示により服薬の支援をしている。又、症状の変化はすぐに報告し、よりよい毎日が過ごせるよう配慮している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の業務の中での簡単にできる作業（おしぼりまき・ビニール袋たたみ）を手伝ってもらう。ビデオ鑑賞やCDでの音楽鑑賞も気分転換になるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じ、花見見学・道の駅への買い物等又、その催しものでの人との触れ合いを喜んで頂けるよう支援している。	地域の方との馴染みの関係がつけられるよう、毎週土曜日は隣接しているデイサービス事業所へ出かけている。四季の花見や清水山に出かける。自宅に帰りたいと希望する利用者の思いが叶えられるよう家族と協力し外出している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、職員が管理しているが、ショッピングなどを企画し、希望に応じて買い物等も支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時はすぐに対応している。手紙・はがき送付時は代筆し、喜びも共感している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ロビー、玄関、洗面所などに季節の花を飾り季節を味わって頂けるよう配慮している。 外庭、中庭にも季節の花を植えて育てている。	リビングにはソファが置かれ、利用者といつでも会話が出来るようにとキッチン是对面式となっている。またリビングから見える中庭には、利用者と一緒に植えた花があり自ずと季節感を味わうことが出来る。テレビの音量や職員の声掛け、光量も適切で臭いへの工夫もしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファー・長イスがあり、入所者が好きな場所で過ごして頂けるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて使用されていた家具・人形等を持って来て頂き居心地の良い工夫をしている。	自宅で使用されていた馴染みの置時計が持ち込まれていたり、季節感が味わえるようにと家族が持参されたカレンダーが飾られ、利用者が居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手摺を、玄関にはスロープを設置している。 全室バリアフリーである。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない